パジャジャラン大学

UNIVERSITAS PADJADJARAN

インドネシアにおける総合的な大学教育は，オランダ旧植民地時代にはきわめて制限され，ジャカルタに法科，医科，バンドンに工科の単科大学が設置されていたにすぎなかった。戦後インドネシアがオランダから独立をたたかいとると同時に，インドネシアは統一国語の制定，国民全般の教育水準の向上等の文教政策に力を注ぎ教員の不足解消や官公職員，管理者の養成を目的としてジャワ，スマトラの主要都市に国立の綜合大学をつぎつぎに設立した。

まず1949年にジョクジャカルタにガジャマダ大学が誕生したのを始めとしてジャカルタのインドネシア大学，スラバヤのアイルランガ大学など現在までにスマラン，バンドン，バンジェルマシン，パレンバン，パダン，アチエの各地に9つの国立大学が設置されている。

・バンドンのパジャジャラン大学はこのような国立大学として4年前に発足をみたばかりの揺籃期の大学であるが，設立以後は教員スタッフ等の不足に悩みながらもインドネシア政府の支援と，西ジャワとくにバンドン市の経済文化圏の背景にめぐまれて急速に機構，学生数の増加，拡充をみせている。

I　沿革と性格

パジャジャラン大学は1957年の同大学設置令に基づいて，同年9月18日に発足した。大学の母体となったものは，バンドンの高等師範学校 (Perguruan Tinggi Pendidikan Guru di Bandung) とムルディカ大学 (Jajasan Universitas Merdeka) で発足当初は，法社会学部，教育師範学部，経済学部，医学部の4学部であった。

大学創設の推進者は，Prof. Muhammad Yamin (現国家企画大臣)，Prof. Iwa Koesoma Soemantri (現高等学術大臣) などスカルノ現政権の第一線に活躍し，インドネシア社会主義の理論的指導者と目されている人々である。このため大学自体の性格が極めて政府の政策追随の色がこく教員，講義用語，講義目的等にインドネシア化をすすめることが設立趣意書にもうたわれている。したがって外国教授の招へい，外国語教材の使用は教員不足等の過渡的な措置としてのみ認められるものと考えられている。この点で，ジャカルタのインドネシア大学が従来，外国の研究機関との交流をすすめ，欧米式のアカデミックな学風も維持してきたゆきかたと趣を異にしている。パジャジャラン大学を特徴づけている親政権的かつ民族社会主義的な傾向は，本年に入ってからの高等学術省が文部省から独立して設置され，主管大臣にパジャジャラン大学の総長であった Iwa 教授が就任して以来，各大学の人事交流などが行なわれて，インドネシア全般の大学指導にも影響を及ぼしているもようである。

設立趣旨の第2の特色は，この大学がバンドンを中心とする西ジャワ地区の文化教育水準の向上を目的としていることで，西ジャワ政庁，協同組合，商工会議所等と緊密な連絡協力を行ない地方経済社会の開発活動に参加し，学生の大部分も西ジャワスンダ人を優先して入学させている。これはインドネシア国内に依然として旧来からの歴史的な種族意識，地方閥が存在していることによるのであろう。ちなみにパジャジャラン大学の名称は14世紀中頃シリワンギ王のもとに栄えたヒンズー王国「パジャジャラン」にちなんで付されたもので，西ジャワの歴史的栄光と自治を表徴しているものである。

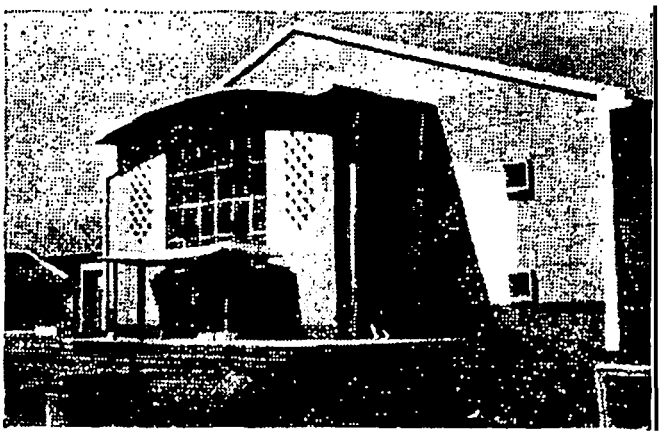
II　組織，財政

大学は発足当初の法，経，教，医の4学部から，現在までに理，農，歯，社会政治，文学，体育，広報新聞，心理の8学部が追設されて，ようやく綜合大学の体裁を整えてきた。バンドンには本学のほか，戦前の工科大学から改組された研究所 (Institute of Tegunology di Bandung，学生数6000名で実質的には大学と同様) カソリック系の私立大学 Parahiangan ほか8大学が群立している。

大学の財政は国家予算から1959年度，1800万ルピア，60年度4500万ルピア，(3.6 億円相当) が支出され61年度要求ベースでは1億2800万ルピアと年々増加されている。このうち大学舎屋，設備の建設等の資本的支出が半ば以上を占めている。

大学の組織運営上は各学部毎の事務局が独自にカリキュラムの作成等にあたっている。

・大学の教職員は全学で424人その内訳は教授(25)，講師 (211)，助手 (188) であるがその半数以上が教育師範



(Universitas Padjadjaran' の一部)

学部に属し，また3分の2が政府機関，私立大学等からの兼任である。教員の質的量的不足はおおいがたいものがある。

諸外国からは派遣教授(14)，共同研究者(14)が参加している。国別には，アメリカ，イギリス，ニュージーランド，オーストリア，ドイツ，チェコ，インド，国連等多彩で British Council, Colombo Plan, Sunny Foundation および各大学が派遣財源を負担している。

ただしこれらの外国教授は，教育師範学部，医学部に集中しており，法学，経済学，政治学など，社会科学の分野には皆無の状況である。経済学部では事業経営，経理，社会の各分野についてユーゴ，日本等から学者を招へいすることを検討中で，学部長の Drs. Kabullah 氏が高等学術省の指示にもとづいて各国を歴訪する予定である。

大学の研究機関としては，教育師範学部に教育学，教材，言語学，社会教育，学課課程の5研究所，医学部に，寄生虫，病理学，解剖学，心理学の4研究所，法学部に，法，社会，および団体組織研究所がある。経済学部には58年に E. Hereman 講師を中心に経済社会研究所 (Lembaga Penjelidikan Ekonomi dan Masjarakat) が設けられたが，現在は予算上の裏付けがなく有名無実の状況である。

実際的な活動としては経済学部が事務局になり，各機関の有識者をあつめて西ジャワ州庁のもとに地域開発に関する ADVISARY COUNCIL を組織することが準備されている。

大学の図書館は，各学部ごとに分属している。蔵書数は法学部の4万冊のほか，各学部とも4～6000冊程度で図書整理，利用状況は極めて貧弱である。ただ最近では，ICA Colombo Plan, British Council の援助で寄贈図書が送られつつある。

Ⅲ 学　　生

大学の学生数は全学で約7000名で教育，法，経，社会政治，医の各学部が中心で他の学部は発足間もないので，学生数も少なくまた学生の大部分は低学年に集中してピラミッド型となっている。

入学選考は S.M.A.(高等学校)の diploma に基づいて行なわれ，約2～3倍の競争率である。インドネシアの国立大学では，インドネシア人自体の教育水準向上のため意識的に中国系学生の入学を制限しており，バジャジャラン大学の場合，中国系学生の割合は1割程度にすぎない。このため中国人はカソリック系の Parahiangan 大学等私立大学に入学しこれらの大学では学生の過半数を占めている。中国人学生が優秀であることもあらそえない事実で，技術系大学 (Institute of Tequenology in Bandung) では，入学時の制限にもかかわらず卒業時には4～5割が中国人となっている。

医学部を除いて一般の学部は3年で Sardjana-muda (学士，B.A.相当) さらに2年の就学で Sardjana (修士 M.A.相当) の称号が与えられる。年2学期制で年2回行なわれる進学試験は，筆記と口頭試問からなり相当厳格な模様である。

国立大学の授業料は，年間240Rp. 共済費，保健料等を含めても500Rp.(4000円相当)で，戦前の高等教育に比べれば，教育への機会均等が図られているといえよう(私立大学授業料は約2000ルピア)。学生の購入する図書類は大学の証明を持参すれば市価の半額で購入できるような措置もとられている。

このほかインドネシア政府は優秀学生への奨学金制度(月額560Rp.)，政府職員の再教育制度(現職のまま大学で受講しうる)もとっている。パ大学の場合，このような学生が合計300人程度もいる。ただし奨学生は，学資給与期間プラス2カ年間の年限を政府機関に勤務することが義務づけられている。政府職員の給与が民間企業に比べて低廉で，政府は有能な中堅職員の不足に悩んでいるためである。

講義はすべてインドネシア語で行なわれる。必修科目として経済学部の場合 Manipol Usdek (Five Essential Points of Political Manifesto of the Republic of Indonesia), Ekonomi Terpimpim (Guided Economy), Koperasi (Co-operative Movement), 等が経済原論と共に行なわれるのも社会主義国家らしい特色である。

(アジア経済研究所派遣員　中沢忠義)

―― 在バンドン ――